

柏をリーディングコアシティへ

柏市長 太田 和美

ベッドタウンからの転換

柏市は昭和29年11月15日に誕生し、令和6年11月で市制施行から70周年を迎えました。これまで柏市は東京へ通勤する人々のベッドタウンとして、人口の増加とともにまちの成長を続けてきました。柏駅前には日本で最初のペデストリアンデッキが建設され、この通称ダブルデッキを入口に、新たな文化が築かれるなど、多くの人々がにぎわう仕掛けが街中で有機的に生まれました。多くのまちが人口の減少を迎える中で、当面の間、柏市の人口は増加する傾向にあります。これまでのような右肩上がりの人口動態を前提としたまちづくりだけでは、近い将来、成長を続けることが難しくなると見込まれています。

ウェルビーイングの実現

価値観が多様化する現代においては、誰一人取り残されることなく、誰もが心も身体も満たされる“ウェルビーイング”の状態を目指すことも重要です。柏市には、多様な暮らしのニーズに応えることができるさまざまな地域資源があると感じていま

すが、これまでまちが発展する中で先人が築いてきた文化や市の強みをさらに磨き上げることでそれぞれの“ウェルビーイング”を叶えていきます。市民の幸福感を高めるために、新たな価値を生み出す事業者や教育・研究機関との連携に加え、来街者を増やすための積極的な取組も重要であると考えています。居心地のよさ、住み心地のよさ、それらが人を惹き付けることで、新しい価値の創造の核になれるまちづくりを推進していきます。



未来を導くまち

まだ人口が増加している期間、具体的にはこれからの10年間に、新たなまちの成長を支える機能や価値を創り上げていくことが重要であり、市民や事業者の挑戦を受け入れ、それらの挑戦を応援するとともに、柏市としても新しい価値の創造に挑戦することが不可欠です。人や企業、情報が集まり、東葛圏域の中核となるだけでなく、新しく集った人々と共創し、圏域や社会を先導するまちとして、未来を見据えたまちづ

くり政策を実行していきます。超高齢社会による社会保障費の増大や生産年齢人口の減少、地球温暖化により生じる気候の変動といった直面する社会課題の解決に取り組むことで、日本を、世界をリードしていく。皆があこがれ、住みたい・住み続けたい、訪れたいと思うまち、それらを“リーディングコアシティ”という言葉で表し、地域を牽引する魅力あふれるまちを目指します。柏から世界へ。前に進む勇気をもって、柏をちょっと特別なまちにしていきます。

